

環境経営レポート



株式会社スウィングベーカリー

2023 年度

対象期間：2023 年04月01日～ 2024 年03月31日



エコアクション21[®]
認証番号 0013946

作成日： 2024年4月15日

更新日： 2024年4月15日

目 次

項 目	ページ
目次	2
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	11
外部からの環境上の苦情・要請等	12
緊急事態対応訓練	12
代表者による全体の評価と見直し・指示	13
これまでの環境活動の紹介	13

スウィングベーカリーの理念

人々の健康で豊かな食生活に貢献する

私たち株式会社スウィングベーカリーは、
「コンビニエンスストア向けのオリジナルパン」を生産して、
お届けしている会社です。

お客様によりおいしく、より信頼されるパンを食べてい
ただくことを最大の喜びとしています。



環境経営方針

<環境経営理念>

昭和産業株式会社のグループ企業であります当社は、2005年3月に昭和産業株式会社100%出資子会社として千葉県印西市に設立され、翌年（2006年）4月よりコンビニエンスストア向けの専用工場として焼成パンを365日提供を開始いたしました。

昭和産業株式会社が定める環境方針に従い、事業活動、製品及びサービスから生じる環境への影響の低減を図るために、昭和産業グループCSR行動規範にある「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」ことにより、あらゆるステークホルダーから信頼を得られるよう企業の社会的責任を果たしてまいります。また、環境活動に取り組み、環境マネジメントシステムによる「継続的改善」を実践します。

そして、社員への環境意識向上のため、地球温暖化防止など環境教育を継続的にを行います。

<環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規及び当社が約束したことを遵守します。
2. 創意工夫を行い、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 食品廃棄物の再資源化割合100%を維持し、廃棄物の3Rを推進します。
4. 水資源の使用効率化・保全等に取り組み、環境負荷の低減に努めます。□
5. 環境や健康に配慮した製品開発に努めます。
6. 全従業員に環境教育・訓練を実施し、環境保全能力向上を図ります。
7. 自然環境に配慮し、地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。

なお、本方針の全従業員への周知は環境方針を掲示し、外部へは環境経営レポートを公開します。

制定日：2022年4月1日

改定日：2023年5月29日

代表取締役社長 **佐藤 誠**
工場長 **取香 正幸**

□組織の概要

更新年月日2024/05/21

(1)名称及び代表者名

株式会社スウィングベーカリー

代表取締役社長 佐藤 誠
工場長 取香 正幸

(2)所在地

本社・工場 住所：千葉県印西市松崎台1-1-11

(3)環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 品質保証部部长兼製造部次長 榎 浩司 TEL： 0476-45-1600 (代表)
環境事務局 FAX： 0476-45-1607
H P： <https://swb.co.jp/>

(4)事業内容

コンビニエンスストア向けパン、ドーナツ、洋菓子の企画・開発・製造

(5)事業の規模

2023年度売上高 5,395 百万円

		本社・工場
従業員	名	289 名
延べ床面積	m ²	8,130 m ²

(6)取組期間 4月 1日 ~ 3月 31日

事業年度 4月 1日 ~ 3月 31日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：株式会社スウィングベーカリー

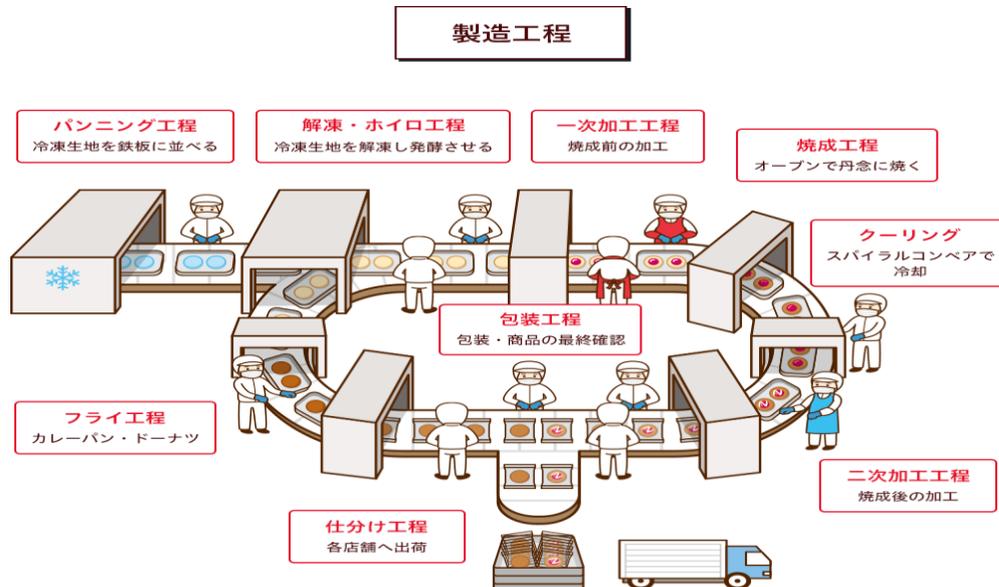
対象事業所：本社・工場

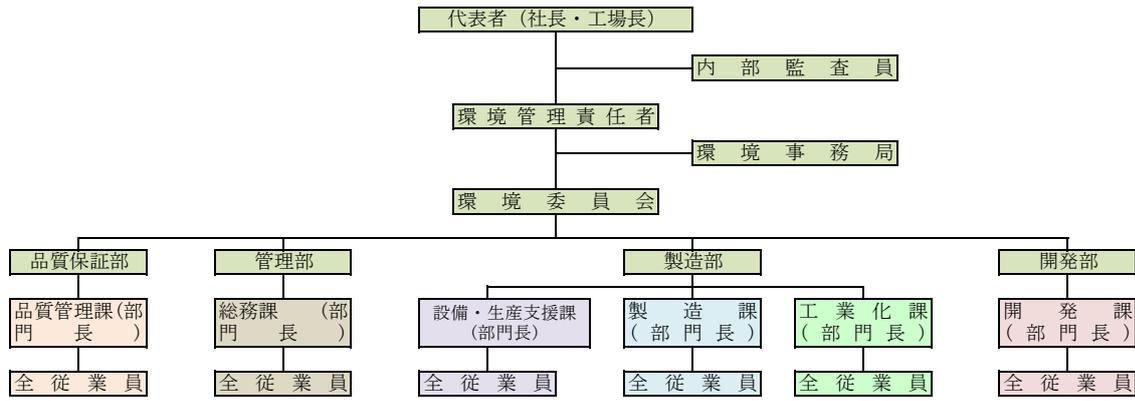
対象外： なし

活動： コンビニエンスストア向けパン、ドーナツ、洋菓子の企画・開発・製造

□事業や製品（商品）の紹介

製造品目 菓子パン・総菜パン・食事パン・ドーナツ・洋菓子
販売エリア 千葉県・埼玉県・東京都のコンビニエンスストアのお店様
生産量 パン・ドーナツ等 1日約140,000食





	役割・責任・権限
代表者 (社長・工場長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任者 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備する 環境管理責任者を任命する 環境経営方針の策定・見直しを行う 環境経営目標・環境経営計画書を承認する 代表者による全体の評価と見直し、指示する 経営における課題とチャンスの明確化を行う 環境経営レポートの承認する
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理を行う 環境関連法規等の取りまとめ表を承認する 環境経営目標・環境経営計画書を承認する 環境活動の取組結果を代表者へ報告する 環境経営レポートの承認する
環境委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営計画の審議を行う 環境活動実績の確認・評価を行う 環境関連の外部コミュニケーションの窓口業務を行う
部門長 (品質管理課、総務課、設備・生産支援課、製造課、工業化課、開発課の管理職)	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営方針の周知させる 自部門の従業員に対する教育訓練の実施する 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告する 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施する 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成する 試行・訓練を実施、記録を作成する 自部門の問題点の発見、是正、予防処置を講じる
内部監査員	<ul style="list-style-type: none"> 環境に関する内部監査計画を作成する 環境に関する内部監査の実施・報告を行う
全従業員 (各課に所属する従業員)	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚する 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局を担う 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施する 環境経営目標・環境経営計画書原案の作成する 環境活動の実績集計を行う 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理を行う 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施する 環境経営レポート作成、公開、エコアクション事務局への送付を実施する

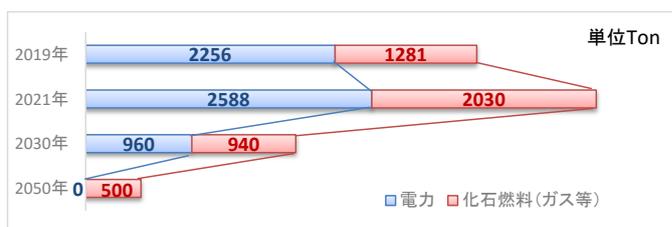
□主な環境負荷の実績

項目	単位	2021年度	2022年度	2023年度	
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	4,581,465	4,284,161	4,250,879	
廃棄物排出量					
一般廃棄物排出量	t	159.69	167.82	159.84	
産業廃棄物排出量	t	815.50	741.36	723.31	
食品廃棄物					
発生量	t	412.32	337.76	337.30	
有価物量		104.73	88.70	81.60	
発生抑制量		81.66	81.53	-3.42	
再生利用量		412.32	337.76	337.30	
熱回収量		0.00	0.00	0.00	
減少量		0.00	0.00	0.00	
再生利用以外の量		0.00	0.00	0.00	
廃棄物処理量		0.00	0.00	0.00	
食品再資源化実施率		%	100%	100%	100%
水使用量		m ³	44,581	49,068	52,475

※1：二酸化炭素排出係数 0.447 kg-CO₂/kWh (東京電力エネルギーパートナー(株)2022年度基準係数)

※2：発生抑制量=使用原材料や余剰製品の削減量

カーボンニュートラルに向けたわが社の取り組み



EA21開始：店舗増による生産量拡大=CO₂の増加

省エネ+太陽光発電+電気自動車+再エネ電力

省エネ+太陽光発電+燃料転換+電気自動車+再エネ電力

燃料で残る分は太陽光発電の余剰分で相殺し、実質ゼロを目指す

□環境経営目標及びその実績

項目	年度	2022年		2023年		評価	2024年	2025年
		(基準値)	(実績)	上段：通期	(実績)		(目標)	(目標)
				下段：(目標)				
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	2,308,843	2,262,666	2,328,309	×	2,216,489	2,170,312	
	基準年度比	2022年	98%	101%		96%	94%	
	原単位 kg-CO ₂ /百万円	445.636	436.724	431.568	○	427.811	418.898	
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,088,074	1,066,312	1,052,026	○	1,044,551	1,022,789	
	基準年度比	2022年	98%	97%		96%	94%	
	原単位 kg-CO ₂ /百万円	210.012	205.812	195.000	○	201.612	197.412	
蒸気による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	883,384	865,716	867,179	×	848,048	830,381	
	基準年度比	2022年	98%	98%		96%	94%	
	原単位 kg-CO ₂ /百万円	170.504	167.094	160.738	○	163.684	160.274	
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	4,280,300	4,194,694	4,247,515		4,112,833	4,027,189	
一般廃棄物の削減	kg	165,500	163,845	159,840	○	162,190	160,535	
	基準年度比	2022年	99%	97%		98%	97%	
廃プラの削減	kg	168,800	167,112	148,490	○	165,424	163,736	
	基準年度比	2022年	99%	88%		98%	97%	
食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	自主目標		97%	100%	○	97%	97%	
	食リ法目標		80%	100%	○			
	基準発生原単位	kg/百万円	166	62.5	○			
水道水の削減	m ³	49,068	48,577	52,475	×	48,087	47,596	
	基準年度比	2022年	99%	107%		98%	97%	
原単位	m ³ /百万円	0.05	0.05	0.09	×	0.05	0.05	
化学物質の適正管理	行動目標(次項による)							
環境に配慮した製品・サービスへの取組	行動目標(次項による)							

※ガソリンについては、使用量が少ない為、目標を設定していない

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標：○達成 ×未達成

活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組み計画		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
電力による二酸化炭素削減			
・数値目標		×	電力使用量は昨年実績より+40,549 kWh (100.96%)となり、電力由来のCO2排出量については当初2%減を目標としていろいろ施策を行ってまいりましたが、異常気象に起因する気温上昇が重なり結果的には月次評価及においては5か月クリアしたものの累計評価において昨年度の数値を下回ることができませんでした。また、当該数値の変化に対応するべくいろいろな対策を講じてまいりましたが、残念ながら結果に結びつきませんでした。 次年度は、本年中に行った施策についての検証を実施し、電力使用量低減対策については生産量の増減により一喜一憂することがないように電力使用状態及び製品生産量順等とのバランスを検討し、生産効率を勘案した有効な削減案を導き出してまいります。
・エアコンフィルター清掃		△	
・不要照明の消灯		○	
・生産設備における不要稼働機器の電源OFF		△	
・開発室エアコン業務終了時停止		△	
・包装機2台、エアー使用停止		△	



取組紹介欄

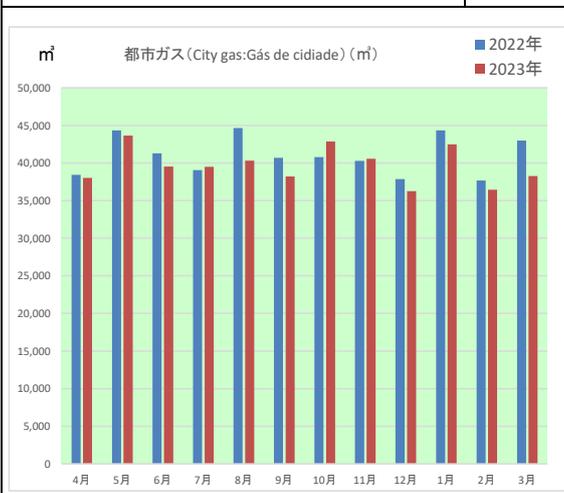
- ・包装機更新による2台、エアー使用停止
- ・遮熱フィルターの設置 効果測定中
- ・12/21静電気除去シート(CONTINEUM)を設置し(12台テスト中) エアコンの消費電力を7%削減(メーカー測定値)

2022年度東京電力エナジーパートナー/2023年度東京電力エナジーパートナー

単位：kWh

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	392,988	426,034	466,925	539,661	535,951	484,695	426,842	389,141	380,619	383,320	346,774	392,246
2023年	386,335	424,373	454,706	541,128	567,780	509,441	426,993	392,031	377,410	381,389	361,812	385,347

取組み計画		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
都市ガスによる二酸化炭素削減			
・数値目標		○	都市ガスを利用した二酸化炭素削減に向けた取組みにおいて、都市ガスの使用量の削減を目指してきました。具体的には、トンネルオープン、ラックオープン、フライヤーの省エネ運転を徹底し、不要な機器の使用停止や低温維持に努めています。これらの取組みにより、4月から翌年3月までの期間において、都市ガスの使用量を削減し、それに伴うコストも低減することができました。今後も、環境保全と経済的効率性を両立させるために、持続可能な生産活動を推進していく所存です。
・トンネルオープンの省エネ運転		△	
・ラックオープンの不要使用機器の停止及び低温維持		△	
・フライヤーの不要使用機器の停止及び低温維持		○	
・			



取組紹介欄

- ・ラックオープン不使用時停止、低温維持中の機器

単位：m³

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	38,424	44,340	41,296	39,040	44,631	40,683	40,770	40,287	37,865	44,333	37,679	42,993
2023年	38,009	43,644	39,514	39,486	40,319	38,213	42,849	40,561	36,253	42,464	36,451	38,267

取り組み計画												
蒸気による二酸化炭素削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画									
・ 数値目標		×	蒸気漏れ点検や夏季の手洗い温水停止など、二酸化炭素削減に向けた活動を推進してきました。これらの取り組みにより、今期の蒸気消費量は、4月から3月までの1年間で、合計で270.07GJの削減出来ました。残念ながら数値目標には届きませんでした。しかしながら、原単位での二酸化炭素削減目標は、達成出来ました。今後も持続可能な社会の実現に向けて、継続的な改善活動を行ってまいります。熱回収装置を導入した結果については、来期中長期的に見て評価していく必要があります。									
・ 蒸気漏れ点検		△										
・ 手洗いの夏季温水停止		○										
・ 熱回収装置（リカロ）導入		○										
・												
		取組紹介欄										
		<ul style="list-style-type: none"> 熱回収装置（外番洗浄機設置） 										
				単位：GJ								
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	1,276	1,241	1,183	1,144	1,106	1,162	1,231	1,235	1,262	1,432	1,158	1,293
2023年	1,115	1,212	1,125	1,074	1,093	1,092	1,235	1,274	1,302	1,285	1,294	1,353

取り組み計画												
一般廃棄物の削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画									
数値目標		○	一般廃棄物の削減に関する取り組みは、分別回収とペーパーレス化の取り組みを行い、これらの努力が廃棄物量の減少に寄与しました。基準年と比較して、今期の廃棄物量は全体的に減少傾向にあり、特に8月と9月に顕著な削減が見られます。10月、11月は、セールなどにより製造量の増加により増えてしまいましたが年度末までで目標値以内に抑える事が出来ました。次年度はペーパーレス化について削減が可能な部分がありますので、さらなるペーパーレス化を行うために工場内各ポジションにおいて問題を精査し検討し削減してまいります。									
・ 分別回収によるごみの見える化		○										
・ ペーパーレス化の取組		○										
・												
・												
		取組紹介欄										
		<ul style="list-style-type: none"> ペーパーレス化の取り組みとしてタブレットを導入し、新商品の共有や一部の帳票の入力などに活用 結果、コピー用紙の使用枚数2022年度436330枚、2023年度418000枚になりました。 										
				単位：Ton								
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	15,490	14,730	14,210	14,070	13,970	13,810	13,490	13,200	12,850	13,080	12,100	14,500
2023年	13,910	13,880	13,550	13,250	12,150	11,580	14,550	13,870	13,240	12,650	12,500	13,900

取り組み計画																																																			
廃プラの削減		達成状況	「取組結果とその評価」における文言を修正																																																
・数値目標		○	廃プラスチック類の削減については、昨年来の計量過多問題が解決したのち、排出量については前年量を通年で下回り昨年度より88.14%となりました。 原料由来の廃棄物については、指定原料を使用しているために個別選択ができませんが、フィルム（袋等）内部に付着している原材料等をできる限り減らす方法の検討及び、自社使用包装用フィルムの在庫管理等を行いリニューアル等で発生する廃棄量の適正化について検討してまいります。																																																
・包材の使い切り		△																																																	
・プラスチック使用量の把握		△																																																	
・原料包材内面付原料を絞り機で絞り取る		△																																																	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>プラスチック類廃棄物 (Plastic waste: Residuos plásticos) (Ton)</p> <table border="1"> <caption>プラスチック類廃棄物 (Ton)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2022年</td> <td>14.63</td> <td>13.67</td> <td>13.50</td> <td>13.72</td> <td>16.59</td> <td>16.14</td> <td>15.33</td> <td>13.93</td> <td>13.76</td> <td>12.75</td> <td>11.79</td> <td>12.99</td> </tr> <tr> <td>2023年</td> <td>12.17</td> <td>12.40</td> <td>12.19</td> <td>12.24</td> <td>13.70</td> <td>12.99</td> <td>13.18</td> <td>12.41</td> <td>11.97</td> <td>11.32</td> <td>11.39</td> <td>12.53</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 50%;"> <p>取組紹介欄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・袋絞り機を7月に購入し、実働開始。 (例 カレーフィリング1袋辺り 70g 廃プラ削減) ・ステップマットの使用の開始。(年間約18kg 廃プラ削減) <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> </div> </div> </div>													年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2022年	14.63	13.67	13.50	13.72	16.59	16.14	15.33	13.93	13.76	12.75	11.79	12.99	2023年	12.17	12.40	12.19	12.24	13.70	12.99	13.18	12.41	11.97	11.32	11.39	12.53
年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																							
2022年	14.63	13.67	13.50	13.72	16.59	16.14	15.33	13.93	13.76	12.75	11.79	12.99																																							
2023年	12.17	12.40	12.19	12.24	13.70	12.99	13.18	12.41	11.97	11.32	11.39	12.53																																							
単位: Ton																																																			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																							
2022年	14.63	13.67	13.50	13.72	16.59	16.14	15.33	13.93	13.76	12.75	11.79	12.99																																							
2023年	12.17	12.40	12.19	12.24	13.70	12.99	13.18	12.41	11.97	11.32	11.39	12.53																																							

取り組み計画												
食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画									
・数値目標		○	食品廃棄物の発生抑制と再生利用率の向上に向けて、積極的な取り組みを行っています。製造プロセスの効率化、原料の適正使用、不良品の削減、余剰原料の管理改善など、一連の活動を通じて、持続可能な生産体制を確立しました。特に、再生利用率を100%維持することで、資源の有効活用を実現し、環境への影響を最小限に抑えています。次年度も、食品廃棄物の問題に対する意識を高め、さらなる環境保全活動に努めてまいります。									
・製造・生産管理間での次週生産品の効率化打ち合わせ		△										
・生産性向上のための工程確認調査、見込み数の削減		△										
・製造不良発生の抑制による原料使い込み防止		△										
・余剰率の見直しによる原料削減		△										
・食品廃棄物の再資源化率100%維持		○										
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>取組紹介欄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次週生産品に対する打ち合わせ </div> <div style="width: 50%;"> </div> </div>												

取り組み計画																																																			
水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画																																																	
・数値目標	×	水の使用は器具等の洗浄に使用される量が最も大きいものと考えられますので洗浄に焦点を当て、作業者の感情に訴えるだけではなく洗浄方法の見直し及び洗浄マニュアルの改定をしてみたいと考えています。 なお、4/4半期に天板洗浄機1台及び器具洗浄機2台を入れ替えており水の使用量は減るものと推測しておりますが、導入が年度末であり使用量の削減に至りませんでした。次年度に使用機器について機械特性を調査し最適な洗浄条件を見出し削減対策を講じてまいります。モニタリング機器を製造現場へ設置したが、うまく活用されなかった為、次年度は使いこなして節水に努めたいと考えております。																																																	
・節水啓蒙	△																																																		
・手洗いシンク水量調整	△																																																		
・																																																			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>水道水(井水を含む)(Potable water: água potável)(m³)</p> <p>■ 2022年 ■ 2023年</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>2022年</th> <th>2023年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>3,820</td><td>3,655</td></tr> <tr><td>5月</td><td>4,166</td><td>4,123</td></tr> <tr><td>6月</td><td>4,270</td><td>4,174</td></tr> <tr><td>7月</td><td>4,484</td><td>4,330</td></tr> <tr><td>8月</td><td>4,162</td><td>4,396</td></tr> <tr><td>9月</td><td>4,167</td><td>4,381</td></tr> <tr><td>10月</td><td>4,170</td><td>4,502</td></tr> <tr><td>11月</td><td>4,090</td><td>4,465</td></tr> <tr><td>12月</td><td>3,941</td><td>4,545</td></tr> <tr><td>1月</td><td>4,021</td><td>4,681</td></tr> <tr><td>2月</td><td>3,614</td><td>4,467</td></tr> <tr><td>3月</td><td>4,163</td><td>4,756</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">単位：m³</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>取組紹介欄</p> <p>・7月に製造現場にて水の使用量をモニタリング可能にしました</p> </div> </div>													月	2022年	2023年	4月	3,820	3,655	5月	4,166	4,123	6月	4,270	4,174	7月	4,484	4,330	8月	4,162	4,396	9月	4,167	4,381	10月	4,170	4,502	11月	4,090	4,465	12月	3,941	4,545	1月	4,021	4,681	2月	3,614	4,467	3月	4,163	4,756
月	2022年	2023年																																																	
4月	3,820	3,655																																																	
5月	4,166	4,123																																																	
6月	4,270	4,174																																																	
7月	4,484	4,330																																																	
8月	4,162	4,396																																																	
9月	4,167	4,381																																																	
10月	4,170	4,502																																																	
11月	4,090	4,465																																																	
12月	3,941	4,545																																																	
1月	4,021	4,681																																																	
2月	3,614	4,467																																																	
3月	4,163	4,756																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2022年</td> <td>3,820</td> <td>4,166</td> <td>4,270</td> <td>4,484</td> <td>4,162</td> <td>4,167</td> <td>4,170</td> <td>4,090</td> <td>3,941</td> <td>4,021</td> <td>3,614</td> <td>4,163</td> </tr> <tr> <td>2023年</td> <td>3,655</td> <td>4,123</td> <td>4,174</td> <td>4,330</td> <td>4,396</td> <td>4,381</td> <td>4,502</td> <td>4,465</td> <td>4,545</td> <td>4,681</td> <td>4,467</td> <td>4,756</td> </tr> </tbody> </table>														4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2022年	3,820	4,166	4,270	4,484	4,162	4,167	4,170	4,090	3,941	4,021	3,614	4,163	2023年	3,655	4,123	4,174	4,330	4,396	4,381	4,502	4,465	4,545	4,681	4,467	4,756
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																							
2022年	3,820	4,166	4,270	4,484	4,162	4,167	4,170	4,090	3,941	4,021	3,614	4,163																																							
2023年	3,655	4,123	4,174	4,330	4,396	4,381	4,502	4,465	4,545	4,681	4,467	4,756																																							

取り組み計画												
化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画										
・使用薬品の購入および使用量の管理	○	当社は、化学物質の適正管理において、環境保護と労働安全を最優先事項として位置づけています。これまでの取り組みにより、薬品に関連する事故や労災を一切発生させていないという実績は、当社の成果として大きく評価しております。天板洗浄機の更新により使用洗剤の変更があった為、次年度に向け化学物質については改めて安全性データシートを取り寄せることを行い、記載内容の確認及び修正を実施してまいります。										
・品質管理使用薬品の購入管理	○											
・												
・												
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>取組紹介欄</p> <p>・ファイルで薬品、洗剤の購入を管理</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>取組結果とその評価、次年度の取組計画</p> </div> </div>												

取り組み計画												
環境に配慮した製品・サービスへの取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画										
・店舗返品データの収集及び製造へのフィードバック	○	環境に配慮した製品・サービスという項目は数値管理できない部分であり、長鮮度化製品の開発等SEJ様と目標に挙げた項目について深堀を行い実績を記載できるようにしてまいります。 次年度に向けてはデータの収集・解析等の項目については、十分な状況にないと判断しておりますのでPCDAサイクルを回すことで新たな切り口を模索してまいります。										
・ロングセラー商品開発	△											
・NDF-FSMSの維持及びFSMSに基づく衛生管理	△											
・												
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>取組紹介欄</p> <p>・店舗様からの返品伝票のデータ集計</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>取組結果とその評価、次年度の取組計画</p> </div> </div>												

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

環境関連法規	関連事項	要求事項	遵守評価	
			確認内容	評価
廃棄物処理法	一般廃棄物	廃収集運搬業者の許可の確認とコピーの保管	許可証	○
		産廃収集運搬・処分業者の許可の確認、契約	契約書、許可証	○
	産業廃棄物	掲示板の表示、飛散・浸透防止、衛生管理	掲示板	○
		交付の確認、マニフェストの保管	管理	○
		年1回の定期査察の実施及び報告書作成	報告書	○
食品リサイクル法	食品廃棄物	再資源化実施率	環境レポート	○
		定期報告書作成	省庁提出書類	○
容器包装リサイクル法	プラスチック製容器包装	再消費の義務	委託契約書	○
騒音規制法	空圧機・送風機・空調機	特定施設の届出	届出書	○
振動規制法	空圧機・送風機・空調機	特定施設の届出	届出書	○
下水道法	排水処理	使用届	届出書	○
		除害施設の設置		○
水質汚濁防止法	排水設備	排水基準の順守・水質測定及び記録保管	排出基準	○
大気汚染防止法	ボイラー	煤煙発生施設設置届	届出書	○
		排出基準の順守		○
		煤煙測定及び記録保管	記録書	○
エネルギーの使用の合理化等に関する法律 (省エネ法)	エネルギー使用設備	エネルギー使用状況届	届出書	○
		エネルギー管理統括者・管理企画推進者・管理者の選任・解任届	届出書提出準備中 (2021年度提出確認)	○
		中長期計画書の提出	同上	○
		定期報告書の提出	同上	○
悪臭防止法	・規制地域内で、特定悪臭物質の排出基準を遵守	規制地域内で、特定悪臭物質の排出基準を遵守	敷地境界確認 地域からの苦情がない事	○
地球温暖化対策の推進に関する法律	千葉県地球温暖化対策実行計画	温室効果ガスの排出抑制	報告書	○
		地球温暖化対策計画・実施状況の報告	報告書	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	冷凍・冷蔵・空調機	簡易点検・定期点検の実施と記録	報告書	○
		フロン充填・回収証明書等の管理(マニフェスト)	管理	○
		CO2換算1000t以上の漏洩の報告	報告書	該当せず
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	・性状及び取扱に関する情報(SDS)の受取	第1種指定化学物質取扱者は排出・移動量を報告	報告書	該当せず
		性状及び取扱に関する情報(SDS)の受取・発行	SDS受領	○
労働安全衛生法	SDS義務のリスク評価	法14条1項	リスク評価記録 総務管理分には評価等のファイルある	○
消防法	消防設備	定期点検	報告書	○
	少量危険物保管	特定施設の届出	届出書	○
	設備設置届出			○
工場立地法	緑地等面積規制	生産施設面積や緑地の整備状況	届出書	○
プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律	プラスチック製容器包装	第四条1項、2項を順守する	排出量の削減	○
水道法	飲用水管理	水質基準測定	報告書	○
		受水槽管理	報告書	○
顧客要求事項	・HACCPによる衛生管理 ・JFS-Bによる食品安全管理 ・7&i GREEN CHALLENGE 2050への取組	使用する原料 納入する製品	外部監査あり (NDF、昭和産業)	○
千葉県環境保全条例	・駐車場	・事業者が管理する自動車の運転者にアイドリング・ストップを するよう指導。	掲示物	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

食品リサイクル法の事業者ごとの基準実施率は達成しています。

環境上の苦情・要請は発生しておりません

□外部からの環境上の苦情・要請等

ありません。

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定：火災、地震の発生時の避難及び火災訓練	
<p>■実施日： 2024/1/8（月）8：45～9：30、 2024/1/8（月）20：45～21：30</p>	<p>■実施場所： 食堂、2F グルーミング</p>
<p>■参加者： 全従業員（289人）。水消火器を使った訓練については各工程の代表者が参加</p>	<p>■実施内容：</p> <p>朝礼、夕礼時に工場内の避難経路についてを動画を通して説明。その後、火災訓練 朝礼、夕礼後は、2F グルーミングにて2か月動画で避難経路を掲示し従業員へ共有し説明した。</p>
<p>■評価：</p> <p>工場内には、避難経路図が各所に掲示してあったが、動画を流し映像で避難経路を認識してもらうことで、イメージしやすく外国人従業員に対しても理解しやすかったと判断。火災訓練については、水消火器を使用し良い訓練となった。消火器の使用方法がわからない従業員もいた為、次回は消火訓練の参加者を増やしたい。</p>	<p>手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし</p>
<p>■実施状況の様子</p> <p>下記は、避難経路の映像を流しているモニター（4台）</p>	
	
<p>上記の写真は、火災訓練の内容の説明を受けています。</p>	<p>上記の写真は、水消火器を使用し訓練しています。</p>

緊急事態の想定： 油流出事故の発生	
■実施日： 2023/9/4（月）9：30～9：50	■実施場所： ドーナツフライヤー室, 惣菜フライヤー
■参加者： 管理職2名、社員3名、パート従業員5名	■実施内容： 油槽よりの流出したことを想定した通報及び対応訓練
■評価：	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
<p>訓練の目的：油流出時の危険を説明し理解を得る。 油槽からの油流出の連絡体制については、作業員→担当社員→リーダー→製造課長の順にスムーズに連絡がとれることが確認された。 油漏れが発生した場合は、報告と同時に油処理を行うことの必要性についても理解を得ることができた。また、火傷などの危険についても理解できた。 前年度、惣菜フライヤー行った内容を訓練前に共有後に訓練を実施したので、吸油マットの取り扱いもしっかり行えた。</p>	
<p>■実施状況の様子</p> <p>油流出時にはどのような危険があり、どのように対応するかを参加者で話し合いながら訓練を行う事が出来た。</p> <p>【手順】</p> <p>外部流出を防止するためにまず排水樹周辺に吸油マットを敷く訓練を実施する。 (前年度実施時に起こった間違いを再現し給油マットの裏表を確認後に正しく敷きました。) 排水溝の位置と油槽の関係の確認する。 排水溝周囲にマットを広げ、排水溝への流入を防止する。</p>	
	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024.05.20

2023年度のエコアクションに関する評価としては、総じて前向きながらも、いくつかの重要な改善点が浮き彫りになりました。電力使用量の増加とCO2排出係数の変動は、二酸化炭素削減の目標達成において大きな障害となっています。これに対し、都市ガス使用量の削減や一般廃棄物の分別回収の強化は目標を達成しておりますが、これらの取り組みは継続する必要があります。食品廃棄物の発生抑制と再生利用率の向上に関しては、製造プロセスの効率化と原料の最適利用により、一定の成果が見られます。

次年度の指示としては、電力使用量の増加傾向に歯止めをかけるための省エネルギー技術の導入の検討や、効率的な工程改善に注力することも必要です。設備の老朽化に関しては、計画的なメンテナンスと更新を進めることで、長期的な設備維持を考えております。

SDGsやESGの取り組みを通じて、企業イメージの向上を図ることは、社会的責任を果たすとともに、省エネ、廃棄物削減、光熱水道費の削減は、環境への負荷を減らすだけでなく、経済的な利益にもつながります。FSMS（HACCPを含む）を基にした食品安全の向上は、消費者の信頼を得るために不可欠です。これらの指示に従い、継続的な改善と革新を推進することで、持続可能な経営を実現していきます。

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
実施体制他	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

◎CSR活動
エコキャップ運動推進
累計個数：118465個（2023.12.20時点）

工場建屋のあります印西市松崎地区で行われているクリーン印西推進運動の一環である清掃活動に参加しております。



□編集後記

2023年度のエコアクションは、環境への配慮と資源の有効活用を目指し、多岐にわたる取り組みを展開しました。電力消費量の微増にも関わらず、二酸化炭素排出量の上昇を抑える事が出来、都市ガスの使用量の削減に成功しました。また、廃棄物の管理においても、一般廃棄物は増加したものの、産業廃棄物の減少や食品廃棄物の再資源化率100%維持など、環境負荷の低減に向けた前進が見られました。これらの成果は、日々の小さな行動の積み重ねと、社員一人ひとりの意識改革によるものと考えております。コンビニ向けパン製造を通じて、地球環境への貢献を続けることは、私たちの使命であり誇りです。今後も、エコアクションを通じて、持続可能な社会の実現に向けて努力してまいります。